



熊本再春荘病院医療連携室だより

再春



平成28年 第1号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春荘病院
編集：医療連携室

KUMAMOTO SAISHUNSO NATIONAL HOSPITAL

熊本再春荘病院ホームページ <http://www.k-saisyunsou.jp/>



この絵は当院入院中の筋ジストロフィー患者のI様が、口でマウスを操作して描いたCGです。
富士山に登る日の出が美しく描かれています。I様の許可を得て、掲載しました。

病院の理念

わたしたちは
患者さまひとりひとりの人権を尊重し
思いやりの心を持って
安心と信頼の医療を
提供します

病院運営の基本方針

1. 患者さま中心の医療
2. 専門知識及び技術の向上
3. チーム医療の推進
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定

Contents

1. 院長あいさつ 2
2. 統括診療部長就任あいさつ 3
3. 開放型病院登録医紹介【宮川内科医院】 3
4. 電子カルテ導入 4
5. 開放型病院登録医紹介【菊池中央病院】 4
6. カフマシーン導入 5
7. 診療科紹介【循環器科】 5
8. 国立病院学会『表彰』 6
9. 外来予約センターお知らせ 7
10. 看看連携 7
11. 市民公開講座開催 8
12. 新任医師紹介 8

新たな展開を目指して

病院長 米村 憲輔

皆様には日頃より当院の運営ならびに医療連携に多大なるご支援ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。お陰様にて当院も昨年4月に新体制が発足して半年以上が大過なく経過いたしました。この間ますます高まる地域のニーズに即した、質の高い医療を効率的に提供できる体制づくりを目指してまいりました。そのためにいくつかの改革を実施しておりますが、今回その一環として広報誌の内容の一層の充実を図るため、“医療連携室便り「再春ニュース」”と“広報誌「再春」”を統合し、“新広報誌「再春」”として一本化致しました。これによりさらに情報発信と共有が円滑に進み、地域連携の大いなる一助となることを期待しております。

さて師走はモンスターエルニーニョによる異常気象が話題となりました。そのせいか12月を迎えてもなかなか本格的な冬は感じられず、これまでどおり正月を迎える気分にはなかなかありませんでした。しかし昨今の長期気象予測からは、今後はこれが当たり前の季節変化になってしまうのかも知れません。いっぽう社会貢献では、ノーベル賞受賞が大きく注目されました。昨年の赤崎勇、天野浩、中村修二3教授の青色発光ダイオード開発の功績での受賞に引き続き、本年も2人の素晴らしい研究者が受賞されました。この一連の慶事は、今後

続く多くの日本人研究者の大きな励みになる喜ばしいことでした。

院内においては一大イベントであった電子カルテの入れ替え更新が、11月に無事に終了しました。初めての事であり種々心配はありましたが、関係各位の鋭意努力により混乱なく更新できたことにあらためて感謝の意を表します。また6月から開始された病棟、外来等の建替整備計画も多くの方々のご協力で順調に進んでおります。引き続き各方面のご協力をお願い致します。

昨今、医療を取り巻く環境は大きく変化しており、一昨年10月施行の病床機能報告制度に続き、地域医療ビジョン策定のための地域医療構想検討委員会が発足、近々到来する超高齢社会における効率的な医療提供体制の構築が急がれています。当院としても地域における医療と介護の連携の要としての重要性は今後ますます高まるため、その役割を十分に果たせる体制を築かなければなりません。従来の体制をさらに発展させるとともに、より幅広い新たな展開が求められています。そのためにも患者様中心の医療を念頭に、地域の医療機関、介護施設の方々との情報共有を図り、さらに連携協力を進めていく所存です。今後も地域の要望に充分に応えられる中核病院としての体制を確固たるものとして参りますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

統括診療部長就任のご挨拶

統括診療部長 坂本 理

平成 27 年 10 月 1 日付けで、統括診療部長を拝命致しました、呼吸器内科の坂本です。統括診療部長就任にあたりまして、今後も職員一同心を一つにして、地域の皆様から愛される熊本再春荘病院を目指していきたいと考えております。我が国の医学・医療はこの半世紀で著しい進歩と発展を遂げ、今や世界最高の水準に達するに至っております。しかしながらその一方、医療の高度化や地域の高齢化に伴う医療の需給バランスの変化などにより、地域医療を支える人材が減少し、とりわけ高齢者を支える医療が、困難な状況に立ち至っているのも現状であります。私ども人の健康を守り、命を預かるものとしては、その社会的使命を十分認識し、地域社会に貢献する責務を負っているものと思われまます。そのような視点から、今後も熊本再春荘病院診療部をさらに充実させ、皆様のご期待に沿える

地域医療支援病院を目指し、その責務を果たしてまいります。昨年はラグビーワールドカップで、桜のジャージを纏った日本代表が歴史的な勝利を収め、日本中に感動と勇気を与えてくれました。「One for all, All for one」の精神は、ラグビーの言葉としてよく知られていますが、熊本再春荘病院の医療スタッフも、「一人はみんなのために、みんなの一つのために」の精神で、個々人のレベルを上げ、力を一つにし、患者様の目線に立って、親切丁寧な医療の提供を心がけてまいります。これからも、「来るものは拒まず」の心意気で、院内の融和を図りながら、当院が熊本県北部地域の住民の方々の方々の「オアシス」となれるよう、精一杯力を尽くして参りたいと考えておりますので、今後とも皆様方のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

開放型病院登録医紹介

宮川内科医院

院長／宮川 俊作 副院長／宮川 克俊

合志市栄2497-10

TEL 096-248-2155

診療内容／内科、代謝内分泌、循環器科

診療時間／午前 9:00～12:30

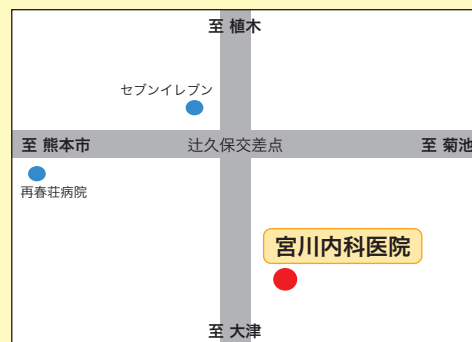
午後 13:30～18:00

診 察 日	月	火	水	木	金	土
9時～12時30分	○	○	○	○	○	○
13時30分～18時	○	○	○	○	○	

昭和 55 年当地に開業し 35 年となります。

当時は医療機関も少なく、専門外の患者さんも受診され、苦渋する事多々でした。現在は各病院は充実し、又専門の診療所も近隣に多数有り隔世の感があります。特に再春荘病院は診療科の拡充、医療機械の最新化、診療スタッフの充実が年毎に実行され、地域の基幹病院として常々お世話になっております。急患の受け入れ、丁寧な結果報告等日々感謝致しております。当院では息子も診療に当たる事となり、CT MRI 等検査を利用させて頂く機会が増えて参りました。

今後共宜しく御指導お願い申し上げます。



電子カルテを更新しました！

経営企画室長 前田 光一郎

平成 27 年 11 月 1 日より当院の電子カルテが 2 世代目となりました。

当院は、平成 21 年 11 月に電子カルテを導入しましたが、既に 6 年経過したこと、基幹システムで使用していた OS が WindowsXP であったことから、マイクロソフトによるセキュリティ対応が出来なくなったことにより、富士通製電子カルテシステム (HOPE/EGMAIN-GX V6) に更新を行いました。

更新に際し、患者様の検査数値等の過去データが、新システムでも正しく反映させることが出来るのが最大の心配事ではありましたが、同じ富士通製でもあったことにより、電子カルテを停止させデータ移行に 32 時間程度は要しましたが、無事にデータ移行を終え、新システムでも問題なく稼働しているところです。

新システムに更新を行ったことにより、操作性、視認性の向上が図れたことはもちろんですが、新たな機能として、チーム医療への対応 (感染管理支援機能、褥瘡管理機能、糖尿病支援機能、NST 支援機能) と当院が行っている小児・

難病患者様の在宅診療時における診療データの参照が出来る機能を新たに追加しました。

一部、新機能を簡単に紹介させて頂くと、感染管理支援機能については、従来の病棟マップ (病棟配置図上に患者様の入室状況を表示) においては、表示することが出来なかった感染経路別予防策をベットの背景色で色分け表示することや、患者様にカーソルを合わせることで検出菌情報を表示することが出来るようになりました。

また、在宅診療時に使用する携帯型電子カルテ端末 (HOPE PocketChart) では、患者様の居宅においても、院内と同じ環境にて患者様のデータを参照することが可能となりました。

なお、今回更新を行ったことにより、県医師会が中心となって現在進められている「くまもとメディカルネットワーク」にも対応することが出来ることになります。

最後になりましたが、電子カルテ休止期間中の患者様の対応にご協力頂き、誠に有り難う御座いました。

開放型病院登録医紹介

菊池中央病院

院長／中川 義久

菊池市隈府494

TEL 0968-25-3141

診療科目／内科、外科、脳神経外科、整形外科、
形成外科、小児科、皮膚科、泌尿器科

診療時間／午前 9:00～12:00
午後 13:30～17:00

診 察 日	月	火	水	木	金	土
9時～12時	○	○	○	○	○	○
13時30分～17時	○	○	○	○	○	

当院は国道 387 号を菊池方面へ直進し田園風景の道路を抜けた菊池市街にある病床数 144 床の病院で、昭和 21 年 4 月前身の信岡病院の開設から今年で創立 70 周年の佳節を迎えます。私は平成 22 年 4 月に院長の任を拝し、重責を全うすべく日々精一杯、患者さん一人一人を大切にしながら診てきたつもりです。今年で院長職が 7 年目に入りますが、益々身の引き締まる思いです。

菊池市民の交通手段はマイカー中心で高齢者も多く、当院のような地域密着型の施設は頼られる存在です。また当院は急性期・亜急性期医療で普段の病気や怪我の診断治療、術後の回復期医療も提供しており、併設の居宅・訪問・デイケアとも連携し、身近な応援団を目指して頑張っています。これからも『なんさま、いっぺん中央病院に行けばいい。』と皆さんに愛される総合医療施設を目指して参りますので宜しくお願いします。



カフマシーン導入

理学療法士 牛島 幸子

MAC (Mechanically Assisted Coughing : 気道粘液除去装置) とは、咳の代償として上気道クリアランスを維持する装置です。当院では政策病棟に手動式 MAC (カフマシーン®) がありましたが、今年 10 月に最新式 (PHILIPS 製 カフアシスト E70) が導入されました。難病にとどまらず小児や呼吸器疾患、外科術後など、胸郭可動域維持や無気肺予防効果が期待できるとされています。排痰で疲労してしまう方の補助として、誤嚥が疑われる方の予防として、術創痛で咳嗽力が低下した方の一時的措置としてなど、用途は様々です。

しかし、いいことばかりではなく、気胸や

不整脈、嘔吐など危険因子も多くあり、注意や監視が必要です。

導入にあたっては、主治医管理下での適切な圧設定が必要となります。医師から本人への説明、意思確認後、リハスタッフにより病棟での数日間練習を経て、病棟スタッフへ手技指導いたします。

詳しくは一度リハ室へお尋ねください。



診療科紹介 No.1

循環器内科入院のご案内

循環器内科は現在専門医 2 名体制で診療を行っています。心筋シンチグラム、冠動脈造影 CT 検査、心臓カテーテル検査といった種々の特殊検査に加え、心臓リハビリテーション (病床での筋力訓練からエルゴメーター負荷まで) も積極的に行っています。先生方におかれましては、外来診療のみでは症状増悪の危険性がある患者様、回復過程で早期退院が不可能な患者様の一時的な入院としてもご利用頂ければと思います。

具体的には、

- ① 心不全のコントロールが困難な患者様。
- ② 心臓リハビリテーションの効果が期待できる患者様。
- ③ 心臓手術や心筋梗塞後などで、回復期の入院を希望される患者様。

を考えております。その他の場合も気軽に当院をご利用頂き、共同診療としてアドバイスなどいただければと思います。

入院に際しましては、地域医療連携室までご連絡頂ければ、直ちに入院の予約をおとり致しますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

循環器内科：三角 郁夫、本多 剛
病棟 師長：奥村 良子

第69回国立病院総合医学会

栄養管理室 祁答院 知佳

今回、『難治性てんかんの女兒に対しケトン食療法を導入し改善を認めた1症例』という演題で発表し、ベスト口演賞を頂くことができました。

ケトン食とは、体内でケトン体が多く産生されるように考案された高脂肪・低糖質の食事です。主に難治性てんかんに対して行われる食事療法で、発作頻度の減少などの効果が期待できます。今回の症例では2歳の女兒が対象であり、ケトン食と薬物療法を併用することにより、発作の頻度や回数の著明な減少、薬剤の減量などの効果が認められました。ケトン食を提供し

ている病院は少なく、私自身ケトン食を担当するのは初めての事であり試行錯誤の連続でしたが、大変勉強になりました。効果が得られた事も医療に携わる者としてとても嬉しく、食事療法の重要性を改めて認識する機会となりました。学会発表の機会まで与えて頂き、ご指導、ご協力下さった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。今回の経験が患者様へ還元できるよう今後とも取り組んで行きたいと思



母親と共に考案したケトン食の一例

療育指導室 古賀 聖子

第69回国立総合医学会にて『九州グループ療育指導室トータルキャリアアップシステムの取り組み－保育士の短期他施設研修の報告－』という演題でベストポスター賞を頂くことができました。療育指導室は、ここ数年大きな世代交代の時期に当たり、より実践的な人材の育成が求められており、九州独自の教育システムを立ち上げています。今回は、保育士の短期他施設研修について発表しました。短期他施設研修とは、

経験3年以上の保育士に対して他施設の業務を短期間経験し、学ぶことで日中活動支援や保育士業務を理解し、知見を広めることを目的としています。少数職種ということもあり、自施設での教育体制を確立するには困難性がある為、グループ内で連携したシステムを確立することが、より深化した教育が可能となると考えます。発表後は多くの質問が寄せられ、関心の高さを感じました。今後も教育システム充実に向けて九州全体で取組みを続けていきたいと思

西2病棟 工藤 真佐美

平成27年10月2～3日、北海道で開催された第69回国立病院医学会へ参加してきました。その日はちょうど爆弾低気圧がぶつかり、強風の中会場へ向かいました。会場内には様々な病院、職種の方で溢れていて、足を踏み入れただけで緊張感が増しました。しかし発表の間はあまり緊張せずに発表することが出来ました。これは、発表前に看護部長を初め、他部署の師長を含めたリハーサルを行ったお陰だと思いました。このリハーサルが研究をまとめる中で一番緊張した瞬間だったと思います。今回はポスターでの発表で、私達のブースは9題の研究が発表されました。発

表直後にベストポスター賞の発表があり、その賞を頂くことができました。名前を呼ばれた瞬間涙が溢れて、メンバーと泣きながら喜びを分かち合いました。研究をまとめる過程は大変でしたが、一生忘れられない思い出となりました。また、学会に行く前に参加メンバーで旅のしおりを作成しプランニングをすることで旅の楽しみも加わり、本来の目的である学会以外にも楽しい時間を過ごすことができました。



リハビリ 藤本 恭子

第69回国立病院総合医学会にて、摂食嚥下サポートチームでポスター発表を行い、ベストポスター賞を受賞しました。この賞は、各セッションから1題ずつ、座長が選定するものです。演題は「当院における嚥下内視鏡検査（以下、VE）導入と実施状況について－摂食嚥下サポートチームとしての試み－」。昨年、神経内科の西田泰斗医師中心に手順書等を作成し、開始した嚥下評価の仕組みとその実績を発表しました。

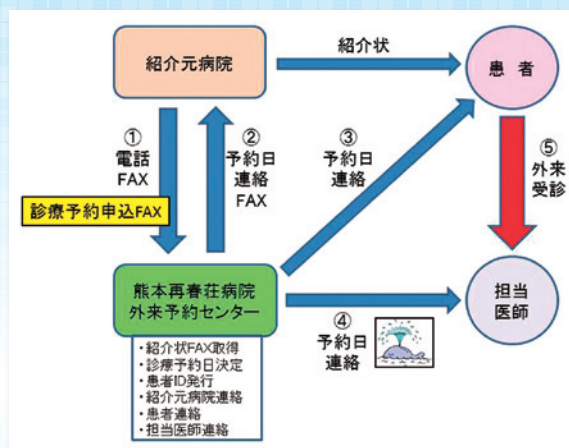
選定理由として、最先端の機器を取り入れ臨床に使用していること、チームで評価していること、今後の可能性として地域にも広げていって欲しい、とのことを座長より頂きました。この評価法は、ベットサイドで簡便にVEを行え、その映像をリアルタイムに複数のiPadに映し出すことができるため、その場にいる全員（患者様含む）で評価することができます。今後も、患者様・ご家族が安心・安全な食事について考える材料を提供できるように、各専門職種の強みを活かしたチームで活動して行きたいと考えています。

外来予約センターをご利用ください

当院へご紹介の患者様の待ち時間短縮を図るため、平成 26 年 12 月より開始し 1 年が経ちました。これまでに約 630 件 (延べ件数)、月平均約 50 件のご紹介をいただいています。患者様やご紹介元の先生方にとって使いやすいセンターをめざしてまいりますので、ご意見等ございましたら、お気軽にご連絡ください。

- ・「診療予約申込み FAX 用紙」は当院 HP よりダウンロードできます。または、必要に応じて郵送・FAX 送信いたします。

※紹介状の FAX は予約と同時になく、後日で結構です。



- ・ 取り扱いの診療科：神経内科・呼吸器内科・循環器内科・代謝内科・リウマチ科・整形外科・消化器外科・呼吸器外科

※以下の予約は直接担当窓口までお電話ください。

■小児科 - 小児科外来 ■各種放射線科検査 - 放射線科受付まで。

- ・ 受付時間：平日 8:30～16:00 ※当日の予約はできません。
前日 (月曜に希望の場合は前週の金曜) までをお願いします。

- ・ 連絡先：TEL: 0120-242-883 (直通) FAX: 096-249-1900
※当日受診や緊急受診などは、当院外来窓口 (096-242-1000) までご連絡ください。

看看・看介連携の活動報告 No.1

—熊本再春荘病院地域医療連携連絡協議会—

地域医療連携室
副 師 長
笠 育美

平成 21 年より、当院の看護職と地域連携施設の看護職との情報交換を効率よく実施し連携を深めていくことで、患者が入院前後を通して、安心して継続的な医療・看護を受けることができるようにするために、当協議会を設置しました。当院の地域医療連携室長、MSW、看護管理職者、病棟看護師 (地域連携委員) と地域の連携機関の看護職、介護職及び医療連携室等の関係者 (行政、保健所、薬剤師会等も含む) が参加して、年 4 回開催しています。内容は、連携全般に関すること、当院への要望、事例検討会、学習会、連携

施設紹介などで、これまでに 28 回実施しています。平成 26 年度からは参加対象を介護施設や住宅事業所へと広げ、現在 99 施設が登録しています。

今年度は「呼吸器ケアの質を向上させよう」をテーマに、呼吸器疾患患者の看護についての学習会や公開シンポジウム、事例検討を実施しました。今後も地域との連携を深めていきたいと考えています。ご意見やご要望などございましたら、お気軽にご連絡ください。



熊本再春荘病院 市民公開講座

当院では、地域住民に対する健康増進への情報発信及び医療従事者の資質向上を図る目的として、下記のとおり市民公開講座を実施いたします。
皆様の参加をお待ちしております。

日 時 平成28年 **2月28日(日)**
14:00～16:00 (開場13:30)

場 所 熊本再春荘病院 多目的ホール

内 容 講演1
大腸がんはこわくない
～今できる診断と治療～
熊本再春荘病院 外科部長 大原 千年

講演2
がん治療と口腔ケア
～がんを克服するためにできること～
熊本県歯科医師会 副 会 長 小島 博文 先生
常務理事 牛島 隆 先生

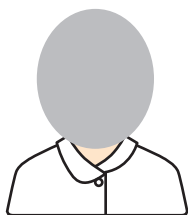
※事前申込み及び参加費は不要です

お問い合わせ

熊本再春荘病院 経営企画室
電話：096-242-1000

新任医師紹介

小児科
福間 真実

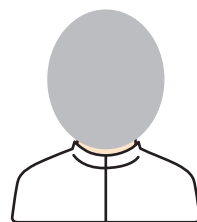


2015年10月より小児科に勤務しております福間真実(旧姓：辛嶋)と申します。日赤、熊大、水保、天草を1-3年ずつ勤務し、直前の2年間は東京都立小児総合医療センターで小児内分泌の研修をして参りました。

当院では小児神経や心身症、重身児管理に長けた先生方がおられ、不慣れな分野ですが、日々勉強になります。他職種との連携もしっかりしていて、カンファなどでも学ぶことが多いです。

菊池電車の乗り継ぎ方を始め、他科の先生方にもいろいろと教示いただき、お世話になっております。楽しく、働きやすい病院で安心しました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

小児科
師井 裕記朗



2015年10月より小児科医師として勤務となりました師井裕記朗と申します。

熊本中央病院で初期研修後、熊本大学小児科に入局し、9月までは熊本中央病院に勤務しておりました。まだまだ未熟ではありますが、地域の皆さんに少しでも貢献できるように努力していききたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。